

国際関係論専攻 [2018 年度 (春学期)] 調査研究助成金 調査・研究報告書

受給者：白石香織

所属：博士前期課程 2 年

研究課題：20 世紀サンパウロ市近郊沖縄出身者の中央市場への進出とそのネットワーク性

調査背景

受給者はこれまで自身の研究（白石 2018）において、戦前ブラジル日本移民の中でもサンパウロ州サントス市に集中した沖縄出身移民に注目し、国際・国内移動において同郷出身ネットワークの存在が大きな役割を果たしていることを確認した。彼らは、当時ブラジルにまで持ち込まれた沖縄県民に対する差別に立ち向かうために県人組織を結成した。同時に、同郷ネットワークを基盤として蔬菜業というエスニック・ビジネスを展開した。このように、ウチナンチュは社会的・経済的な沖縄出身者コミュニティを形成していった。サンパウロの都市化が進んでいた当時、市内の商業の中心地はサンパウロ中央市場であった（1933 年開設）。その市場へ「日本人」として初めて進出したのは、沖縄出身の女性であった。彼らは市場進出の先駆けとして、余剰生産分を行商で販売していたが、そこには同郷ネットワークが作用していたのではないだろうかという問いを立て、本調査では戦前サンパウロ中央市場進出における沖縄出身者に焦点を当て、彼らのブラジルにおける経済的階層移動と同郷ネットワーク性について検証していきたいと考えた。

調査目的

以上のことから戦前、サンパウロにおける蔬菜業をめぐる沖縄出身者がどのようにエスニック資本を利用し流通経路を確立していったのかを明らかにすることを目的とした。

調査方法・内容

本調査の期間は 2018 年 7 月 19 日～9 月 3 日までの約 1 か月半である。期間中、主に 1) 文献調査、2) 中央市場における参与観察および市場卸売業従事者に対するインタビューを行った。

1) 文献調査

日系社会側の農産物流通ネットワークについて調査するため、日系移民研究の中心機関であるサンパウロ人文科学研究所を拠点に行った。ここでは中央市場開設前後の時期に発行されていた農業関係雑誌ⁱを中心に分析を行った。また、ブラジル社会側の 19 世紀後半から 20 世紀前半における都市化ⁱⁱや人口流入ⁱⁱⁱ、都市部の移民^{iv}やその役割^v、中央市場に関する文献を、カンピーナス州立大学人文科学部図書館内において収集したほか、書籍 3 点^{vi}を購入した。

2) 中央市場における参与観察および市場卸売業従事者に対するインタビュー

8月1日、20～22日にかけて、サンパウロ中央市場および併設する青物市場キンジョウヤマトおよびサンパウロ州食料供給センター（CEAGESP）で卸売業従事者計4名へ、同月21日には元従事者2名に自宅に赴きインタビューを行った。

調査・研究報告（何をどこまで明らかにしたか）

1. 日系社会内部の構造に関して

蔬菜業全体におけるウチナンチュ・コミュニティの特殊性を明らかにするため、蔬菜業従事者の対象を沖縄系に絞らず、広く日系農業全般に関する資料分析や質問をした。すると、以前確認された様な沖縄出身者を特別視するような風潮はあまり見られなかった。つまり、市場内の日系人社会においては沖縄出身者とそれ以外の府県出身者といった、戦前の日系社会でしばしば見られたような明らかな対立は特に確認されなかった。例えば8月22日に行ったインタビューにおいても「市場で働く日本人はみんな一緒」という語る場面があった。一方で、本市場関係者への聞き取りからは、日系人一般がリベルダーヂ地区に集住し始めた頃、沖縄出身者は中央市場周辺に集住していたという、出身・居住地域別の棲み分けがあったことも確認された。沖縄出身者の特徴として、誰かが始めた商売が儲かるとわかると、後続の者が出てくる。先に始めた人は彼らをライバル視するのではなく、助けるという習慣がある、と語るウチナンチュは多い。こうした習慣や同郷ネットワークがこの地域への集住地域の形成を促して来たと考えられる。しかしながら、市場における日系人の社会関係を見ると、沖縄出身者は多いものの、特にその特殊性は見られなかった。

2. 市場での商売、家族関係について

8月20～22日に行ったインタビューおよび資料分析の結果、日系・非日系ともに、従業員を雇っている場合もあるが、代々店舗の責任者はその家族に引き継がれているケースが多いことが明らかになった。21日に日系4世の女性に対し行ったインタビューでは「まさか学校を出た自分が市場で働くとは思ってもいなかった」という語りが見られ、蔬菜業従事者という職業の意味付けが世代をまたぐにつれて変化してきている様子もうかがえた。商品の流通に関しては、現在農家から直接野菜が送られてくる場合はまれで、ほとんどが中央市場よりも大規模な卸売市場での買い付けにより供給がまかなわれていた。以上、インタビューや資料分析により、中央市場の役割や従事者にとっての位置付けが変遷していることが確認された。

以上、本調査ではフィールドワークを通じ、当初考えていた仮説とは異なる結果が得られた。今後は、収集したブラジル社会に関する資料整理をしながら、市場における日系社会とサンパウロ中央市場におけるその位置付けを明らかにしていきたい。

-
- ⁱ 『農業のブラジル』農業のブラジル社、1928～1932年分。：アンドウゼンパチ『コチア産業組合30年の歩み』コチア産業組合、1959年。：中野順夫『ブラジルにおける日系農業史研究：「サン・パウロ近郊における日本人野菜生産販売概史』サンパウロ人文科学研究所、<https://www.cenb.org.br/articles/display/393>、2018年8月20日閲覧。
- ⁱⁱ AMADIO, Décio (2004). *Desenho urbano e bairros centrais de São Paulo, Um estudo sobre a formação e transformação do Brás, Bom Retiro e Pari*. Tese de Doutorado. FAU-USP. São Paulo.:
- ⁱⁱⁱ De OLIVEIRA, F. A. M. C (1988). *Mercantilização e urbanização em São Paulo*. Campinas: NEPO/UNICAMP.:
- ^{iv} Dos SANTOS, Carlos José Ferreira(2008). *Nem tudo era italiano : São Paulo e pobreza 1890-1915*. 3. ed. Imprensa São Paulo, SP: Annablume.: CENNI, Franco (2003). *Italianos no Brasil*. 3rd edição. São Paulo: Edusp.: DE Boni, L. C. (org.) (1996). *A presença Italiana no Brasil*. Porto Alegre: Edições EST; Torino: Fondazione Giovanni Agnelli; v.III.
- ^v LEVY, M. S. Ferreira (1974). *O PAPEL DA MIGRAÇÃO INTERNACIONAL NA EVOLUÇÃO DA POPULAÇÃO BRASILEIRA (1872 A 1972)*. Revista Saúde Pública. São Paulo. (Faculdade de Saúde Pública da USP, Suplemento, jun.) Vol. 8, pp. 49-90.
- ^{vi} DEAECTO, Marisa Midore (2002). *Comércio e vida urbana na cidade de São Paulo (1889-1930)*. SENAC. São Paulo.:
- J. A. Tiradentes (2008). *Mercado Municipal Paulistano : setenta e cinco anos de aromas, cores e sabores*. São Paulo: SUPRA.: FACETA, Walter, Jr (2004). *Mercado Municipal de São Paulo: 70 anos de cultura e sabor*. São Paulo: abooks.